

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490100726		
法人名	有限会社 すまいる		
事業所名	グループホームいろは		
所在地	大分市賀来2090番地1		
自己評価作成日	令和3年3月8日	評価結果市町村受理日	令和3年4月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/44/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=4490100726-00&PrefCd=44&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市上田町三丁目3番4-110号 チュリス古園府壺番館 1F		
訪問調査日	令和3年3月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者がゆっくりと過ごして頂ける家庭的な施設である。
駅がすぐそばにあり、市内中心部へのアクセスもしやすい場所にある。
自然豊かな環境にも恵まれている。
特殊浴槽も設置しており、ADLが低下した入居者も安心してゆっくり入浴できる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者・職員はミーティングで、理念の求めるものは何かを話し合い、毎日のケア会議で利用者一人ひとりについて理念を踏まえたケアについて検討し、実践につなげています。コロナ禍、家族の面会・外出等が制限される中、窓越しやベランダから声掛けをする面会・事業所内でレクや食事作り(行事食やおやつ)の回数を増やし気分転換を図る工夫を行っています。事業所での看取り介護については入所時に説明し理解を深め、終末期の在り方についての意向を段階毎に確認し、家族・主治医・協力医・訪問介護等と連携してより良い最期を迎えられるよう対応しており、職員全体で看取り後の反省会を開き次に活かしています。地域交流にも積極的に取り組み、お祭り(賀来の市)や行事の参加、地域の防災訓練に参加したり、事業者の交流スペースを地域住民の避難場所にも提供しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を施設内に貼ったり、職員の名札の裏に印刷するなどして、普段から意識できるようにしている。ミーティングでもケアについて話し合い、共有して実践につなげている。	理念は、事業所内に数ヶ所掲示しています。職員の名札の裏に印刷してあり、常に理念を念頭に支援しています。日々の支援の中で困った時や迷った時は、理念に立ち返りミーティングで確認・共有し実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が利用できる地域交流スペースを設置している。地域のお祭りへの協賛や参加など、地域との交流を大切にしている。	事業所内に、地域交流スペースが設けられ情報交流の場となっています。お祭りや敬老会等、コロナ終息後も継続して交流出来るように、地域との繋がりを大切にしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの介護や認知症についてなどの相談はいつでもお受けするようにしている。また、地域ネットワーク等の集まりにも積極的に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には、市役所職員、地域包括支援センター代表、家族代表、自治会長、民生委員、職員代表が出席している。話し合いで出た意見などを反映し、サービス向上に活かしている。	現在、会議を開催する事は困難になっていますが、議事録・アンケートを送付してメンバーの方々の率直な意見を頂き、サービス向上に取り組まれています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や研修会などでケアサービスの取り組み等について意見交換しながら協力関係を築いている。	市主催の研修会や会議を通じ意見交換を行ったり、直接職員が出向いて相談し、課題解決に向け協力関係が築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実施している。もし、必要な場合も、医師の指導の下、ご家族に説明し、同意して頂いてからでないと行わないよう徹底している。	身体拘束をしないケア・虐待については毎回、議題に入れ事例をあげて検討し、職員の意識の向上に努めています。利用者が安全で自由な暮らしができるように支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングでは度々議題に上げている。虐待しない、見過ごさないように注意を払うよう徹底し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度を理解できるよう、情報に耳を傾け、活用が必要である場合には支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明を入居者やご家族に十分行い、不安や疑問点がある場合も丁寧にお答えし、納得して同意を頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者やご家族からの意見、要望などを職員間だけでなく、運営推進会議などで意見交換し、運営に反映させている。	利用者の思いや意見、家族からの電話やアンケートの意見・要望に柔軟に対応し、サービスに活かされるように努めています。今後も運営推進会議で意見交換をして、運営に反映する意向です。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで運営に関することについても意見交換し、反映させている。	ミーティングで、職員全員の意見や課題意識を聞く機会を設けています。管理者も、職員の意見を検討して反映できるように努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望休日や希望する時間帯での勤務を反映できるよう努めている。勤続年数、勤務態度などに応じて毎年昇給を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修などには積極的に参加させている。研修で学んだことを日々のケアやミーティングでバックアップし、スキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や交流会などに積極的に参加して、他の施設の取り組みなどについて意見交換し、サービス向上に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に好きなことや趣味、困っていることや不安なことをヒアリングし、入居者が安心できるための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時、入居時などにご家族が困っていることや要望などをヒアリングし、解決に向けて一緒に取り組んでいくことで信頼して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者やご家族が必要としている支援を見極め、その方に合った提案をするよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の家事など、入居者ができる範囲で手伝って頂くようにしている。一緒に行くことで教えられることも多く、お互いに支えあっていることを実感できる場面となっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族参加のイベントなどを通じてより良い家族関係の構築に努めている。ケアで問題が発生した場合、ホーム内だけで解決するのではなく、ご家族の意見も取り入れるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の馴染みの場所などを聞き出してお連れしたり、馴染みの方々が集まる機会に参加できるよう支援に努めている。	現在コロナ禍で難しい状況ですが、電話や手紙での支援を続けています。今後も繋がりが途切れないように関係継続の支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、関係がより良くなるよう努めている。ホールでの座る位置を変えたり、会話が楽しくなるように職員が間に入ったりすることもある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時にはできるだけ詳細な情報を提供し、相談などあれば対応、支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりが、どう暮らしていきたいか把握するよう努めている。ご家族からも情報を頂き、反映するよう努めている。	職員は、毎日の支援の中で一人ひとりの思いや意向の把握に努め、家族からの情報も伺い検討して反映できるように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者やご家族からこれまでの暮らしなどをお聞きし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々の様子を観察し、ミーティング等で情報交換し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時には入居者、ご家族の意見や要望を聞き、ミーティング等で意見交換し、作成している。短期目標に沿ってモニタリングし、見直している。	担当職員が、日々利用者の変化や要望、家族からの要望をミーティングで話し合っています。モニタリングでは見直しを行い、介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日々の様子は介護記録や情報交換ノート、ミーティングなどで共有しており、ケアプラン作成時にも参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	突発的な怪我や体調不良時には病院にお連れしている。各種申請手続き等もできる範囲で代行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や研修会、地域ネットワークなどで地域資源を把握し、安全で豊かな暮らしができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による定期的な往診がある。往診時に相談したり、必要な場合は検査指示して頂いたりしている。訪問歯科や訪問看護も利用している。	かかりつけ医(4名利用)・協力医(訪問診療)と事業所との関係を築きながら、利用者・家族の希望に沿った適切な受診支援となっており家族の安心と信頼に繋がっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護士が職場内の看護師、訪問看護師等と相談や情報交換を行いながら協力して入居者を支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した場合にはご家族や病院関係者との情報交換をしている。入院中の経過等も情報交換し、退院時の受け入れ準備もしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のケアについては早めに入居者、ご家族の意向を確認するなど、話し合いをしている。実際にその時期になったときには体調の変化の度に話し合いを重ね、支援に取り組んでいる。	利用開始時に「終末期の看取り指針」に基づき事業所で対応できることを説明しています。重度化し状態の変化に応じて、医療関係者・家族・職員等で十分に話し合い、意向に沿った支援を行っています。職員も研修を重ね、看取り後の反省会や家族の感謝の声も参考に今後の対応に活かしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、現場にも貼っている。ミーティング等でも緊急時の対応について話し合っており、緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を行い、災害時に備えている。倉庫に食料などを備蓄したり、寝具類も余分に用意している。	年2回の避難訓練を行っており、外部の防災対応の方が来て指揮を取り指導・訓練を行っています。事前に計画を立てずに実際に動くことで職員の意識向上に繋がっています。また、地域防災訓練の参加、事業所の地域交流スペースを避難場所に提供しており協力体制を築いています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、声かけやオムツ交換など誇りやプライバシーを損ねないよう努めている。	人生の先輩として、尊敬する心を忘れないよう価値観を尊重しどんな言葉や行動にも受容の姿勢で接し人格の尊重を図っています。排泄時や入浴時には特に、プライバシーや羞恥心への配慮にも努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりが希望したことなどを実行できるよう努めている。すぐに実行できないこともミーティングで計画するなどしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務中心でなく、入居者一人ひとりの生活リズムを尊重するよう心掛けて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えのときに一緒に選んだり、散髪るときに一人ひとりの希望する髪型を聞いてお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の栄養バランスを考え、メニュー作りを委託している。イベントの際は入居者さんの希望をお聞きしてイベントメニューを考え、提供している。	栄養バランス・カロリーを考え食事は外注しており、職員は見守りと介助に徹しています。行事食やおやつは利用者とともに事業所で手作りしており、利用者と一緒に出来ることを手伝ってもらい自己実現に繋げており、全員で作る楽しみを味わっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや水分量に気を配っている。一人ひとりの健康状態にも十分注意して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、訪問歯科による専門的な口腔ケアやアドバイスなど、口腔内が清潔に保てるよう支援している。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレ誘導やオムツ交換などしている。なるべくトイレで排泄できるよう自立に向けた取り組みをしている。	全体で7～8名の利用者が排泄は自立しており、他の利用者は排泄チェック表に基づき、声を掛けトイレ誘導を行っています。パット交換のタイミング等、排泄パターンの中から失敗の回数を減らす取り組みを行っています。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が原因で発熱や不穏行動など、日常生活に影響が出ることは理解している。水分補給を促したり、散歩や体操などで便秘予防に努めている。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の楽しさを忘れてしまわないために、入浴日には様々な方法で誘導し、皆さん入浴して頂けるよう努めている。特殊浴槽の設備があるので、ADLが低下した入居者も入浴を楽しんで頂ける。	週2回を基本とし入浴支援を行っていますが、回数を増やす方・入浴日も自分で決める方等個々に沿った支援を行っています。重度化した場合も車イス専用浴槽があり利用者に応じた支援を行っています。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせて日中の活動を促し、夜間ゆっくり眠れるように支援している。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服薬している薬について理解できるよう情報をファイルしたり、訪問薬剤師の説明を受けたりしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や食器の片付け、掃除や洗濯の手伝いなど、できることは一緒に行っている。何か役割を持つことにより、いきいきとした表情が見られる。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩や外気浴などを行っている。職員とドライブや買い物に出掛けたり、ご家族と外食や外泊に出掛けたりもしている。	施設周辺に散歩道が作られ、毎日散歩される方や、バルコニーで外気浴やお茶・利用者同士の会話で気分転換を図っています。また、家族との面会もバルコニーから手を振ったり話したりとコロナ禍の中、利用者の不安軽減に工夫しています。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に多額の金銭は持ち込まないよう、ご家族にお願いしているが、買い物に出掛けたときなどは好きなものを選んで買い物を楽しんで頂き、施設が立て替えて支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話したり、友人に手紙を出したりできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごして頂けるように照明や空調などに配慮し、季節に応じて模様替えをしたり、入居者の写真や作品を飾るなど工夫している。	創作活動で制作した、季節折々の作品が室内に飾られ季節感を大切にしています。オレンジ系の照明を用い温もりのある安心した空間作りに努めており、ホール内に置いたイスやソファ等は利用者の動線上に危険のないよう配置されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりがホールで思い思いに過ごして頂けるような居場所の工夫をしている。テーブルやソファ等の配置などもミーティング等で話し合っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に使い慣れた家具を置いたり、写真、作品などを飾ったりするなど居心地よく過ごして頂けるよう工夫している。	入所時、馴れない場所へのダメージ軽減の為、家で使い慣れた物や趣味の物を持ち込んでいます。家族写真・人形・ダンス・ソファ等を置いて少しでも心地よく過ごせるよう工夫しています。部屋でゆっくり寛げるよう、プライバシー確保に努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで要所に手すりも設置しており、一人ひとりが安全に生活や歩行訓練などができる環境をつくっている。		